



# スカウト 浄土



## The Scout Jōdo

### 「縁断社会」のスカウト

浄土宗スカウト連合協議会

理事長 濱田 智海



たことではないでしょうか。パソコンやスマホを利用したり、モート画面だけで相手の顔を見て、話し、接触し、繋がりを持つ、これも現在では致し方ない繋がりの一つと言えるかもしれません。

に指導者とスカウト達が集い、走り、笑い、競い、学ぶことができなくなつた一年でした。現実には集会や行事の減少によりスカウト達が辞めていく事態が全国で起きています。

私たち日本のスカウトまた世界のスカウトはお互いに「スカウトは兄弟」です。スカウトは活動中、危険を伴うこともあり、班員スカウト同士がお互いに助け合つていかなければならない場面もあるでしょう。このような時こそスカウト精神で繋がる心が大切であると思います。

令和2年はコロナ禍で始まりコロナ禍で暮れた一年でありました。全国のスカウトの皆さん方、どのようなスカウト活動を展開されたでしょうか。日本社会も「自粛、自粛」で会社の仕事、諸団体の研修・会議はZoomなどを利用したりリモートで、学校も長い間休校、各種スポーツ大会も中止となりコロナ禍前の一昨年とはまったく違う世の中となつてしまいました。

特にコロナ禍の中で一番の変化が人と人の繋がりが失われ

しかし、直接相手と向かい合つて顔の表情、目の動き、息づかい、そして熱を感じることは画面だけでは到底感じることできません。人と人との縁（繋がり）がますます離れていく、これこそが「縁断」と言えるのではないかと思います。数年後にはコロナ禍が落ち着くでしょう。その時に果たして人と人との縁（繋がり）が元に戻るのか危惧せざるを得ません。

また、スカウト活動もリモート集会や各家庭で進級課題の消滅などに終始して、本来の野外

スカウト運動創始者のベーン・パウエル卿は「信仰のないスカウトはスカウトではなく単なる術使いにすぎない」と言われ信仰の大切さについて語られています。私たちはしっかりとした信仰を持つ「浄土宗スカウト」であり「お念仏」で繋がるスカウトです。人と人との繋がりを断つ「縁断」のコロナ禍に負けない「お念仏の信仰」を心の中に持ち続けながら、今年も浄土宗スカウトとしての道を歩み続けていきたいものであります。

## 感謝とお礼

浄土宗スカウト連合協議会顧問 東海林 良雲



この度、日本連盟功労賞「たか章」の榮譽を賜り、同時に宗門から浄土門主表彰を受章しました。ただただ低頭合掌するばかりです。この受章は私個人の榮譽ではなくひとえにスカウト運動に携わる多くの方々のご協力によるもので、皆様との功績を称えていただけただのどと思いません。素晴らしい盟友と共に私がスカウト運動を今日まで続けさせていただけただけことは幸甚の至りです。

私がスカウト運動に携わってからいつの間にか50年の星霜が流れ過ぎてしまいました。

当初スカウト運動について無知な私でしたが、地域団の集いに寺域を貸して、野外活動に興味があった私と地域団の縁

が深まり、スカウト運動の講習を受けたのが始まりでした。シニア隊の隊長の任を受け、スカウト運動に正式に参加していったのです。

北海道でのシニア全国大会に宮城派遣隊長として参加し、次第にスカウト運動の面白さにのめり込んでいきました。青少年の育成と宗教との思ってもいなかった組み合わせにやりがいを感じて奉仕していったのです。

このとき、宮城蔵王での第8回日本ジャンボリーの開催が確定しており、県内唯一の浄土宗関係者の私に、浄土宗スカウトが担当宗だった宗教部本部付として奉仕することになりました。浄土宗をはじめとする各教団関係役員の素晴らしい人柄に共鳴して、その翌年塩釜4団の発足となったのです。まさにジャンボリー団の発足でした。

スカウト運動は単なる青少年育成の社会活動ではありません。私も当初は単なる野外活動と思っていたのですが、大変な間違いでした。青少年の教育には心

の教育が大切です。現在の学校教育では、人格形成で一番大切な基盤である宗教を教育から排除しています。私も時代の流れの中で教育され、当初スカウト運動と宗教教育が理解できずにいた一人でした。現在心の教育の大切さを強調しますが、その具体的な方法は一切示されていません。心を深く見つめてきたのは宗教でしょう。中でも仏教は人間の心を深く見つめています。仏教の中でも法然上人は、人間の心の深層を徹底的に見つめられました。その上に立って万人救済の道を阿弥陀仏の本願念仏に見出されたのです。その法然仏教を中心に青少年の社会教育運動を進めているのが浄土宗のスカウト運動です。

スカウト運動には宗教が大切であることは申し上げるまでもありません。日本連盟にも宗教委員会があり、私も奉仕していました。現在46教団体が所属して活動しており、ローテーションで運営されています。

地域団で当初の私のように団活動をしておられる方もおられると思います。ぜひ浄土宗スカウトに登録されることをお勧めめ申し上げます。

今回「たか章」受章にあたり、併せて理事長退任のご挨拶を申し上げます。平成23年に浄土宗スカウト連

合協議会理事長の重任をいただいていた十年が経過しています。私もこの大任を、身を賭して勤めてきたつもりです。浄土宗のスカウトの健全育成を推進し、ひいては念仏をお称えすることのできる人を一人でも多く輩出するよう努めてまいりました。

任期中には、浄土宗スカウト仏教章研修会や指導者研修会を各地で開催しました。大きな行事としては平成25年7月に山口県きさらぎで開催された第16回日本ジャンボリー併修第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー、同じきさらぎで平成27年7月に開催された世界スカウトジャンボリー、また平成30年7月の石川県珠洲市での第17回日本スカウトジャンボリーに浄土宗スカウトとして参加し、何事もなく円成いたしました。

今回「たか章」を受章するにあたり浄土宗スカウトの益々の繁栄を念じつつ理事長としての重責を全うできましたことをご

助力いただいた皆様、誠にありがとうございました。併せて、低頭合掌するばかりです。三指



おめでとう！

発団70周年！

ボーイスカウト東京連盟  
台東第4団 副団委員長

岡本圭示

昭和25年（1950）12月28日、台東第4団（旧東京第67団）は浅草本願寺の本堂で発隊式を挙行了しました。私が中学2年生の終わりがごろでした。ツバメ班、トラ班の2個班13名でスタート。

当時、スカウト用品は何もなく、私服か学生服にあり合わせのフロシキをネッカチーフの代用に使っていました。隊の色を濃紺に決めてからは、せめてネッカチーフぐらいは揃えようということになり、思案の末、近くの寺院から白の人絹布をもらい集め、これを自分たちでお釜に染料を入れて染め上げました。

翌年の昭和26年4月に東京連盟合同の伊豆大島ハイキングに参加するために、育成会のお骨折りで木綿の真新しいネッカチーフと揃いのユニフォームを着て喜んで参加したのを覚えています。昭和30年1月カブ隊発隊。38年4月シニア隊（現、ベンチャー隊）発隊。43年7月青年隊（現、ローバー隊）発隊。61年6月ビーバー隊発隊。これで5個隊が揃って完全な団となりました。昭和の終わりから平成の

初めにかけて団の人数が増え続け、ピーク時には200名になりました。現在90名が在籍しています。

発団当初よりわが団は、一派にとられない地域の仏教団であることを標榜しており、すべての集会の始めと終わりに全員で仏様に礼拝することを常としています。団委員と指導者の中で僧侶は、現在5人おり、団行事として修正会、降誕会、成道会、涅槃会等の仏教行事に交代で法話をしています。

当団は去年が発団70周年でしたが、1年延ばして本年10月10日に記念式典を行う予定にしています。

ボーイスカウト熊本連盟

水俣第1団 団委員長

濱田智海

終戦を迎え、物心とも荒廃した世の中で、未だ日本の進むべき道も定かではない昭和24年（1949）の秋、小学校校庭の片隅で誓いの式・発団式が行われました。当時の記録写真を見るとまだユニフォームも揃っていない式でしたが、子どもたちが瞳を輝かせている姿が印象的で、これから何か楽しいこと

が始まるという思いがあったと思います。

それから70年の月日が経ち、当時のスカウト達の多くがお浄土へ旅立たれましたが、時代が変わるうが脈々と今日までスカウト精神が受け継がれていることに驚きを感じざるを得ません。さすがにボーイスカウトであります。

当団は、ボーイスカウトの中のモットー「日々の善行」の実践に努めるべく地域貢献活動を展開してきました。①各種募金活動 ②スタンプを収集して公共施設や災害地へ車イスを贈る運動 ③在宅障害児・医療センター入院中の子どもたちへクリスマスプレゼント ④海外教育支援活動 ⑤東日本大震災等の自然災害支援活動など多くの支援活動を行ってきました。それは、スカウト達に現場を感じ取ってもらいボーイスカウトにとって「奉仕活動」がいかに大切かを学ばせることでした。特に東日本大震災被災地での瓦礫撤去作業、地元熊本地震被災地での活動基地や現場での奉仕活動、タイの山岳民族の子ども達・カンボジアの孤児院の子ども達への支援活動を行い、参加したスカウト達は間近に見聞きして現状を学んだと思っています。

と信用を積み重ねてきたことではと思っています。

ボーイスカウトの三つの誓いの第一に「佛と国とに誠を尽くしおきてを守ります」という他の青少年団体がない、スカウトの誇りとする素晴らしい誓いの言葉があります。本来、青少年教育は「知・徳・体」のバランスがとれた教育が必要なのですが、今の日本は知育偏重の社会であり、中でも宗教情操豊かな徳育が忘れ去られていると感じています。その中でスカウト教育は素晴らしい宗教情操教育が確立されています。

当団の母体は浄土宗の寺ですが、スカウト連合協議会との関係は昭和45年（1970）の第1回浄土宗スカウトハワイ海外派遣にスカウトを派遣してからです。その後、3回の浄土宗スカウト海外派遣や仏教章研修会及びジャンボリー宗教儀礼に多くのスカウト・リーダーが参加して全国各地の浄土宗スカウトと交流し、親交を深めながら法然上人の「お念仏」の心に触れ、浄土宗スカウトとして育ちました。

この70年の間、青少年を育み支えてくださいました多くの方々並びにご指導いただいた諸先輩に感謝して、これからも地元貢献に努め「お念仏」を申すスカウトの育成に邁進していきたいと思っています。

**岡本顧問が宗門功労者に！**

当会顧問の岡本圭示師が、総本山知恩院に於いて令和2年11月9日に浄土宗宗門功労者表彰を受けられました。

岡本師は浄土宗の法儀師として長く宗門の法式をご指導されてこられました。ボーイスカウト東京連盟台東第4団団委員長や地区役員などとともに当会の理事長を長くお勤めいただいた経歴も功績に認められ表彰されたと伺っています。

お慶び申し上げます。なお、コロナ禍のため、少数でしたが心ばかりのお祝いをさせていただきます。



**ホームページがリニューアル！**

令和2年度事業として、当会のホームページをスマートフォン

でも閲覧しやすくするため、リニューアルしました。

そのため、当会事務局でもテキストデータなどは簡単にアップできるようになりました。

また、仏教章（浄土宗）取得手順についても流れを分かりやすく解説しました。

ご覧いただき、ご意見などございましたら、事務局宛にメール等でご連絡をお願いします。

**令和2年度 活動報告**

コロナ禍のため、9月に実施予定で準備いただいた指導者研修会は来年度に延期となりました。

また、浄土宗スカウト仏教章研修会は、4人の参加申し込みがあり、開催準備を進めています。（2月末時点）



信仰奨励章取得のためのアンノウンスカウトとアンノウンソルジャーのパネルシアターセットの貸出がありますので、活用ください。詳細は事務局へお問い合わせください。

**次年度 主な行事予定**

■総会のお知らせ

令和3年度年次総会は左記のとおり開催いたします。現地参加、リモート参加両方できるように考えておりますので、どうぞ、ご予定をお願いします。

**日時** 令和3年5月21日(金)

午後2時～4時

**場所** 宗務庁東京第2会議室

■令和3年度指導者研修会

今年度延期となった指導者研修会は、引き続き山口教区瑞相寺井原善昭理事が担当してください。開催の詳細が決まりましたら、ホームページ・メーリングリストでご案内します。

■第65回仏教章研修会

第65回仏教章研修会は、左記での開催を予定しています。

**日時** 令和4年3月27日(日)

～29日(火)

**場所** 大本山増上寺（予定）

総会での審議で変更するところがあります。

地元開催を要望される方は必ず総会にご出席をお願いします。コロナ禍が去り、宗教章に挑戦するスカウトが増えることを期待しています。

**令和2年度広報掲載報告**

◆宗報（和合）

- ・7月号（総会報告）
- ・9月号（指導者研修会延期）
- ・2月号（理事会報告、仏教章研修会開催案内、仏教章事前研修のお願い）

◆お知らせチラシ

・宗報2月号に同封発行

◆メールニュース

- ・No.46～50を配信
- ※メールニュースの配信および会員向けメーリングリストに登録希望の方は、事務局まで

■訃報

当会会員萩原修音上人（群馬・桐生13）が令和2年11月29日に御遷化されました。ここに謹んで報告します。

**スカウト浄土**

（第四十号）

■発行／令和三年三月二十日  
東京都港区芝公園四一七一四  
浄土宗宗務庁社会部内  
浄土宗スカウト連合協議会

■URL: <http://scout.jodo.or.jp>

■e-mail: [scout-info@jodo.or.jp](mailto:scout-info@jodo.or.jp)

■編集者／巖谷勝正

■印刷／小竹印刷(株)